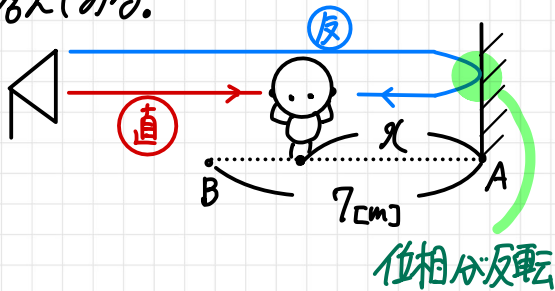


音の“強弱”のついでに『干渉』を用いて
考えてみる。



直接音と反射音の経路差が 2α
のついでに、条件式は..

$$2\alpha = \begin{cases} m\lambda & \text{〈弱め合い〉} \\ (m + \frac{1}{2})\lambda & \text{〈強め合い〉} \end{cases}$$

($m=0, 1, 2, \dots$)

壁際のAは経路差が0のついでに
Aは弱め合っている。

強弱の数は..

弱 → 強 → 弱 → 強 → 弱

↑ ↑ ↑

スタート 1回目 2回目

よってBが28回目となるのついでに、弱め合いの
条件式が

$$2 \times 7 = 28 \times \lambda$$

$$\therefore \lambda = \underline{\underline{0.5 \text{ [m]}}}$$